

2025年度

事業報告書

2025年1月1日から

2025年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 事業内容

国内外の被災地における災害直後の調査活動（情報収包含む）及び緊急援助を含め、被災地への食料・生活物資支援及び心身の健康を維持するためのカウンセリング、並びに災害復興のための文化・芸術活動の支援活動を他の協力支援者とともに協働して展開し、もって被災地の子どもたちや青少年を元気にし、かつ健全に育成するための支援事業。

2 2025年度活動概要

東日本大震災から14年目を迎え、変化していく被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流等を他の支援者とともに協働して実施した。

3 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- 被災地における環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市教育委員会・南相馬市教育委員会、NPO法人相馬フォロアーチーム、NPO法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施してきた。現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- 2025年度においても南相馬市から継続の要請を受けたため、支援を継続した。
- 世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。

カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	6名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 【実績】 ・2011年5月より継続実施 ・2015年3月までの相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：750件、教員：355件、保護者62件 ・2025年3月までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：7,444件、教員：771件、保護者：965件		

(2) スポーツ交流

- 福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカー大会、サッカースクールおよびサッカー指導者講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者とともに協働して2011年より実施している。

- ・ 2025年度は1月に子どもサッカー大会「星槎奥寺カップ」を開催し、相馬市・南相馬市の8チームより、小学生93名が参加した。
- ・ 世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）等の支援活動を行った。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
・ 子どもサッカー大会 「星槎奥寺カップ」	福島県相馬市	・ 相双地区小学校の児童 93名	2025年1月11日
備 考	【協働者（機関）】 相馬市サッカー協会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人国際学園 【実績】 2011年度より継続実施		

（3）東日本大震災関連のその他の活動

- ・ 福島県大熊町は東日本大震災後、全町避難を余儀なくされ、2023年によりやく学校が再開され子どもたちが帰ってきたが、いまだに様々な制限の中で、ストレスを抱えている子どもたちが多い。前述のカウンセリング、スポーツ交流以外にも、同町において子どもたちを支援するため、2023年には大熊町放課後児童クラブ「ゆめの森」へ遊具やおもちゃなどの寄付活動を行った。2025年度は、同児童クラブの子どもたちを山梨県道志村に招き、2泊3日の行程で自然の中で思い切り遊んでもらうキャンプを実施した。本事業は児童クラブを運営する一般社団法人と協働、また大熊町より後援を受けて実施した。

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
・ FGC Presents 大熊こぐまキャンプ in 山梨道志村	福島県大熊町	・ 放課後児童クラブの児童・生徒 31名	2025年7月22日 ～7月24日
備 考	【協働者（機関）】 一般社団法人 Dream Forest Supporters, 学校法人国際学園、ネイチャーランドオム 【後援】 福島県大熊町		

（4）各地での災害等への支援

- ・ これまでも、国内外各地で発生した災害等に対し、緊急募金活動等を実施し、被災地の子どもたちや青少年のために活動する自治体・団体に寄付を行ってきた。

2025年3月28日にミャンマー連邦共和国中部で発生したマグニチュード7.7の大地震により、震源地であるマンダレーをはじめ、首都ネピドーなど各地で甚大な被害が生じた。ミャンマーはかつて当財団でも支援・交流事業を実施しており関わりの深い国であることから、募金活動と呼びかけ年間を通じて受け付けてきた。集まった募金および当財団からの支援金を併せて、300,000円を、国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」に贈呈した。

【各地での災害に対する近年の支援活動実績】

2025年3月 ミャンマー地震への緊急募金活動
 2024年1月 能登半島地震への緊急募金活動
 2023年2月 トルコ・シリア地震への緊急募金活動
 2020年7月 豪雨による九州地方被害への緊急募金活動
 2019年10月 沖縄 首里城焼失 再建のための募金活動
 2019年10月 東北地方台風被害への緊急募金活動

Ⅱ 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされている地域・社会において、教育・保健衛生・医療に携わる従事者の育成及びそれぞれの環境の改善、向上を他の協力支援者とともに協働して展開し、もって子どもたちや青少年を元気にし、かつ健全に育成するための支援事業。

2 2025年度の活動概要

本事業では子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施、また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する活動を行っている。

2025年度はウガンダ共和国における子どもたちへの教育支援および現地小学校の環境整備支援を引き続き実施した。また、コロナ禍以降初のブータン王国訪問を行い、パラバスケットボールの競技用車いす5台を同国パラリンピック委員会に贈呈するとともに、オリンピック委員会や各連盟との協議を行い、今後の活動の再活性化を図った。

3 支援事業の概要

(1) ウガンダ共和国

ウガンダ共和国オモロ県の現地小学校支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ウガンダ共和国オモロ県	KOMOREBI 小学校児童	協議により決定
経緯	2023年2月、ウガンダ共和国オモロ県にて日本のNPO法人(NPO法人五条クラブ)が創設した「KOMOREBI 小学校」が開校、小学校1、2年生の子どもたち86名が学校生活を開始。2023年7月、NPO法人と公益財団法人世界こども財団の協働へ向け協議を開始。9月に支援の現状と現地で必要とされる事案等を確認、検討の結果、本活動が世界こども財団の公益目的事業と合致、また実現の可能性が高いことを確認し、新規支援事業として取り組むことを決定。2023年11月駐日ウガンダ共和国大使と面会、協議の結果、本事業がウガンダ共和国政府公認(公式)となる。 2023年12月20日-28日に現地訪問し視察、また現地自治体と五条クラブ、世界こども財団の3者で連携協定を締結。2024年4月に橋の建設をスタートし7月に完成、橋を「SEISA Africa Asia Bridge」と名付け支援者(個人・法人)の名前を記した完成記念のモニュメントを設置した。また、併せて2023年度から2025年度ま	

	で継続的に小学校の教室増設へ向けた支援も実施し、児童の進学に併せて5学年までの教室が整備されている（ウガンダの小学校は7年制）。2023年、86名でスタートした同校は、2025年度時点で140名（4年生まで）を超えた。 【2024年度からの中期計画（5ヵ年）】 当財団の3つのビジョンにある「ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を」に基づき、一過性の支援ではなく継続的な支援と関わりを目指す。 以下5ヵ年の支援内容： ・当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援：完了 ・当該小学校の教室増設支援 ・当該小学校のインターネットなどの学習環境整備 ・当該小学校の電気・上下水道・衛生設備などの環境整備
備 考	【協働者】駐日ウガンダ共和国大使館およびウガンダ共和国政府、ウガンダ共和国オモロ県、NPO 法人五条クラブ

2025年度 現地小学校支援内容

①小学校の教室増設支援	
支援内容	ウガンダ共和国の小学校は7年制となっているが、2023年「KOMOREBI 小学校」は3学年まで、3教室しかない状況であった。2024年度は4学年、2025年度は5学年への進学のための教室増設支援を実施し、完了した。
②国際交流支援	
支援内容	ウガンダ共和国および「KOMOREBI 小学校」との国際交流プログラム、また将来的には留学生の招聘など、教育・文化的な支援や交流プログラムを継続的に実施していく。 2025年度は大阪・関西万博に関連して、当財団の所在地である神奈川県大磯町が当財団の活動を契機として「万博国際交流プログラム」におけるウガンダ共和国との交流事業（大磯こどもサミット）を実施し、協力要請を受けて当財団の活動紹介等を行った。また、大阪・関西万博会場において、ウガンダ共和国大使館からの招待を受け、ナショナルデーの式典に出席した。

(2) ブータン王国

①ブータン王国でのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国アスリートおよび関係者	2025年3月
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン王国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。また、2021年度には東京オリンピック競技大会においてブータン代表チームの事前キャンプおよび大会参加支援を実施した。東京大会終了後も2023年世界水泳福岡への参加支援を行った。	
支援内容	2025年度は3月2日に開催された東京マラソンへのブータン王国からの出場支援の要請を受けた。同国のアスリート1名に対し、過去に社会貢献活動に実績があり、同国から初となる東京マラソン出場の経験をブータンに持ち帰り子どもたちにシェアするという計画を確認した上で、支援を実施した。	
備考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園	

②障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国において身体および知的障がいを持つアスリート	2025年8月
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、福祉車両の寄贈等の環境整備、事前キャンプ受け入れ等の支援を実施、パラアスリート3名がブータン王国史上初のパラリンピック大会出場を果たし、無事に終了した。	
支援内容	2025年8月にコロナ禍以降初のブータン王国訪問を行い、パラバスケットボールの競技用車いす5台を同国パラリンピック委員会に贈呈するとともに、オリンピック委員会や各連盟との協議を行い、今後の活動の再活性化を図った。	
備考	【協働者（機関）】 ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園	

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解促進と健全な育成のための支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされる地域・社会において、それぞれの国の将来を担う子どもたちや青少年に対し、日本国内への留学等の教育支援及びスポーツ・文化振興に関する支援活動を他の支援者とともに協働して展開する等、国際相互理解の促進と彼らを健全に育成するための支援事業。

2 2025年度活動概要

アフリカ・アジアを中心とする各国との国際相互理解促進を図るため、高校・大学留学生の受け入れを他の支援者とともに協働して継続実施した。特に、スポーツに才能のある青少年を受け入れることで、スポーツを通じた国際交流および青少年育成支援を行っている。また、国際理解促進のための教育機関

における授業プログラムも実施した。

3 支援事業の概要

(1) マリ共和国留学生（高校生）の受け入れ

- ・ 2025年度は、マリ共和国からの高校留学生（バスケットボール競技男子1名）の受け入れを継続した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当した。
- ・ 併せて、当該留学生が2026年3月に高校卒業予定であるため、国内進学へ向けた支援も実施し、2026年4月よりスポーツ特待生としての進学が決定した。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	マリ共和国	(継続) 高校生1名	2023年度より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、駐日マリ共和国大使館		

(2) ナイジェリア連邦共和国留学生（高校生）の受け入れ

- ・ 2025年度に、ナイジェリア連邦共和国からの高校留学生（バスケットボール競技女子1名）の受け入れを開始した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当した。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	ナイジェリア連邦共和国	(継続) 高校生1名	2025年4月より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日ナイジェリア連邦共和国大使館		

(3) エリトリア国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ 2017年度に事業を開始し、これまで同国より高校・大学留学生計12名の受け入れを実施した。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 2025年度は、星槎道都大学陸上部に在籍していたエリトリア人大学生2名のうち1名が3月に卒業、その後も在籍生徒1名について支援を継続した。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	エリトリア国	(継続) 大学生2名	2017年度より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学 【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および陸上競技連盟、 駐日エリトリア国大使館、学校法人 北海道星槎学園、学校法人 国際学園		

(4) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム

- ・世界こども財団職員を国内の学校に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として2022年度より実施している。
- ・2025年度は、星槎国際高等学校（横浜鴨居学習センター、立川学習センター）を定期巡回したほか、昨年度に続き夏季休暇中も特別企画を担当し、エリトリアやアフリカの文化・言語紹介や調理実習を通じて食文化紹介も実施した。
- ・また、昨年に続き駐日エリトリア大使館から要請を受け、6月25日に港区白金小学校での国際理解教育の出張授業を実施した。エリトリア国出身職員が担当し、エリトリアの文化や言葉について紹介、同校3年生の115名が参加し、感想の手紙などで多くの反響があった。

出張授業プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業	国内	児童、生徒および学校関係者	2022年度より継続
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日エリトリア国大使館		

(5) 国際交流イベント SEISA Africa Asia Bridge (SAAB)への参加・開催支援

- ・アフリカ、アジアの国々を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることを目的として例年11月に開催される国際交流イベント SEISA Africa Asia Bridge (通称 SAAB) において、世界こども財団は2015年度から2022年度までは共催団体の一つとして、2023年度以降は後援団体として参加している。
- ・11回目となる2025年は11月15日（土）、昨年に引き続き横浜市との共同開催となった。横浜会場には10,593人が来場、アフリカ各国の駐日大使館を中心に40か国からの参加を得た。また、プログラムはオンラインでも同時配信された。
- ・世界こども財団では本イベントを後援するとともに、実行委員会にも参加し、大使館招聘、各種申請関係、翻訳、通訳等の開催支援を実施した。また、イベント当日には活動紹介のためブースを出展した。

SEISA Africa Asia Bridge 参加・開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
SAAB 2025	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者、視聴者、および参加生徒等	2025年11月15日
備考	【協働者（機関）】 SEISA Africa Asia Bridge 実行委員会、横浜市、一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎、アフリカ各国駐日大使館、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 【実績】 2015年より継続		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされる地域・社会において、孤児院や障がい者施設等で、自立に向けた技能体験等に必要な資金提供（寄附）や企業へのインターンシップ等に関する支援活動を他の支援者（企業等）の協力を得て展開する等、子どもたちや青少年の自立を図るための支援事業。

2 2025年度の活動概要

本事業については基本的に前年度と同様、エリトリア国出身職員を中心としたプログラムを実施した。一方、状況を確認していたバングラデシュでの事業については、現地法人閉鎖の報告を受け、2026年度に終了を予定している。

3 支援事業の概要

（1）エリトリア国出身職員の自立支援プログラム

- 当財団のスポーツ奨学生（陸上競技）プログラムで日本に留学し、大学を卒業したエリトリア国出身者1名を職員として雇用し、当該職員が引き続き日本で活動、自立して社会人としての生活を送れるよう支援するとともに、当該職員を主体としたプログラムを実施した。
- 本プログラムは単に外国籍の職員を雇用し直接支援することではなく、日本で学んだ留学生が社会に出て、広く母国およびアフリカの文化を紹介すること、さらにその留学生が次の世代の子どもたちや青少年を育てていくことにより、支援と関わりあいの循環を生むことにある。
- 2024年度に引き続き2025年度も「Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載した出張授業プログラムの実施に加え、高校生および大学生への陸上競技指導、留学生への日本語指導を当該職員の主担業務として実施した。

エリトリア国出身職員に関連する支援事業

支援対象地区		支援対象者	日程等
エリトリア国および日本国内		エリトリア国出身職員および 留学生を含むプログラム参加者	通年
支援内容	当該職員による下記プログラムのコーディネート ・ 高等学校における出張授業 ・ 高等学校、大学における陸上競技指導 ・ 高等学校における留学生への日本語指導		
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園		

(2) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院への支援事業

- 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界こども財団は両者の窓口として継続的に取り組み、工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。
- 2025年時点で現地法人の閉鎖業務完了の報告を受けた。一定期間は、問合せ対応等のため引き続き株式会社矢部プロカッティングとアグラサーラ孤児院間の連携窓口としてサポートを行い、2026年度に終了を予定している。